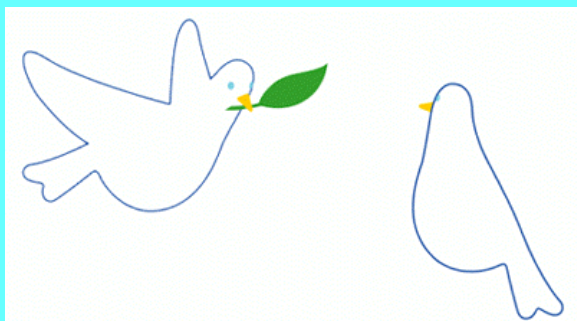


ガンの

セカンドオピニオンを上手にとるコツ

たとえばガンの告知を受けたとき、
治療方針を決めるにあたって
主治医とは別の医師の意見を聞くしくみを
「セカンドオピニオン」といいます。



目次

はじめに

1. セカンドオピニオンって、なに？	1
2. セカンドオピニオンの成功例	3
3. セカンドオピニオンを上手にとる 7カ条	4
4. 誰に聞けばいいの？	6
～ セカンドオピニオンに適した医師の専門分野(疾患別)～	
5. 専門医資格とは	9
6. セカンドオピニオン協力医リストについて	12
7. ガンについて調べる / 相談する	14
8. セカンドオピニオン・ネットワークについて	17
9. セカンドオピニオンをとるまでの流れ	18
10. 患者のための整理メモ	20

はじめに

この冊子は、ガンと診断された方がセカンドオピニオンをとるときの参考にしていただくことを目的として作られました。そのため、ガンを中心とした内容になっていますが、「セカンドオピニオンを上手にとる7カ条」などは、すべての病気に通用するものです。

この冊子をご利用になるみなさまに2つのお願いがあります。

1. 冊子の内容について、「この部分がわかりにくい、使いにくい」と感じになりましたら、具体的な改善案をセカンドオピニオン・ネットワークまでお知らせください。
2. この冊子が役に立ったと思われる方は、ご友人やお知り合い、あなたの主治医にご紹介ください。

みなさまからのご提案や情報提供により、セカンドオピニオンを支える環境がさらに充実していくことを私達は願っています。

セカンドオピニオンって、なに？

WHY・・・なんのため？

医学が進歩した今日では、一つの病気でもいろいろな治療法があり、医師によって治療方針が異なることが少なくありません。また、一つの治療法では限界がある場合、いくつかを併用した“集学的治療”も行われます。さらに、医療には“絶対治る”という保証がなく、どんな検査や治療にもリスクが伴います。このような状況では、最初に診察した医師の考えだけでなく、複数の医師の意見を聞いて、あなた自身の事情や価値観に最も適した治療法を選択することがとても大切です。このように他の医師の意見を聞くことがセカンドオピニオンです。ただし、セカンドオピニオンをとるかどうかも、あなた自身が選択することです。

WHEN・・・いつ、とるの？

病名を診断されてから、最初に治療を受けるまでの間にとるのが、最も効果的です。なぜなら、一度受けてしまった治療を元に戻すことはできないからです。「ガンかもしれない」と診断されると、患者は「1日も早く治療を受けなければ」と焦りますが、一般に進行が著しくない場合を除けば、セカンドオピニオンをとるための数週間の遅れが、治療結果に悪影響を及ぼすことは少ないと言われています。

逆に、一刻を争う症状で救急搬送されたような場合は、セカンドオピニオンをとることはできません。

ガンの再発や転移が見つかったときも、セカンドオピニオンをとれば、どんな選択肢があるかを知ることができるでしょう。

WHO・・・誰がとるの？

乳幼児や痴呆症の患者でない限り、本人（本人を含めた家族）がとるのが原則でしょう。実際、家族のみ（本人不在）のセカンドオピニオンは受け入れていない病院・医師もあります。たとえ、受け入れている場合でも、本人が望んでいないのに家族が隠

れてとるような行為は、患者の気持ちを傷つけ、家族のトラブルにつながるおそれもあります。

[セカンドオピニオン ネットワークの協力医リスト\(P12参照\)](#)には、こうした受け入れの条件も記載されていますので、参考にしてください。

WHERE ……どこに行けばいいの？

どうい医師にセカンドオピニオンを依頼するかは、重要なポイントです。主治医にセカンドオピニオン医を紹介してもらう方法もありますが、考えの近い医師を紹介されて、同じ治療を勧められることもあります。P8の [誰に聞けばいいの？」](#)や、[セカンドオピニオン ネットワークの協力医リスト](#)を参考にして、あなたの目的にあった医師を探してください。

HOW ……どうやってとるの？

セカンドオピニオンをうまくとるためには、患者側の心構えや準備がとても大切です。行き当たりばったりで第2、第3の医師を受診しても、あなたが治療法を選択するうえで役に立つ意見やアドバイスが得られないおそれがあります。そこが、ドクターズショッピングとセカンドオピニオンの違いなのです。具体的には、P4の[セカンドオピニオンを上手にとる7か条](#)を参照してください。

注意！セカンドオピニオンの勘違い

次のようなケースはセカンドオピニオンとはいえません。このような相談でセカンドオピニオンを申し込んでも、受け入れてもらえない可能性があります。

- × 主治医には質問しにくいので、別の医者に聞きたい
- × 主治医の良し悪しを評価してもらいたい
- × 5年前に受けた手術が、適切だったかどうかを知りたい
- × 夫の死因は、手術ミスかどうか知りたい

セカンドオピニオンの成功例

40代 Yさんの場合

乳房にしこりを見つけ、地域の A 病院を受診した Y さん。マンモグラフィ、超音波検査、細胞診を受けた結果、'ガンとも正常ともいえない細胞が見えているが、私の経験から判断してガンに間違いない」と主治医はすぐに手術することを薦めました。

しかし 患者会から情報を入手していた Y さんは 組織をとって調べないと、確実に診断できないのでは？」と主治医に問いかけ、セカンドオピニオンをとりたいと申し出ました。知人の看護師に紹介された B 病院でセカンドオピニオンをとったところ、細胞診からも生検からもガンと確定できないので、定期的に検査を続けるしかないでしょう」との意見でした。Y さん自身も、定期的に検診を続けていくことで納得しています。

60代 Tさんの場合

地域の病院で喉頭ガンの疑いがあるといわれた T さんは、'ガンなら手術するしかない」と考え、大病院の耳鼻咽喉科を受診しました。やはり手術を薦められたのですが、手術後は声が出なくなると説明されて、急に決心が鈍ってしまいました。'他の治療法はないものか」と調べたところ、放射線治療もあることがわかり、主治医にセカンドオピニオンの希望を伝えました。

同じ病院の放射線科医に意見を求めたところ、手術と放射線治療の治療成績に大きな差がないことがわかり、'どちらにせよ 100%の結果を期待できないなら、声を残せる放射線治療を受けたい」と主治医に申し出ました。予後には少し不安がありますが、自分の選択に納得しています。

70代 Sさんの場合

早期の胃ガンが見つかった S さんは、'まだ小さなガンなので、お腹を開けて手術しなくても、内視鏡でガンを取り除くことができます」と消化器内科の医師に説明されました。しかし、新しい治療法はちょっと不安だし、そんな方法ではガンを取り残すのではないかと心配になり、外科でセカンドオピニオンをとることにしました。

外科医に内視鏡治療と手術の利点と欠点を説明してもらい、自分なりに考えた結果、S さんは手術を選ぶことにしました。

セカンドオピニオンを上手にとる7カ条

前ページの成功例とは対照的に、「わざわざ遠くの病院まで行ったのに、出直してくるように言われた」「主治医の肩を持つばかりで、ろくに説明もしてもらえなかった」という人もいます。

両者の違いはどこにあるのでしょうか。“いい医者”に偶然めぐりあえるかどうか、かかっているのでしょうか？そういう運不運もないとは言えませんが、実は患者側の準備や心構えが、とても大切なのです。

1．疑問点は、先に主治医に聞いてから

あなたの病状を最もよく理解しているのは主治医です。セカンドオピニオン医を訪ねる前に、主治医の説明や意見をきちんと聞いてください。P20の患者のための整理メモを主治医の元に持参して、必要な内容を聞き取るというように

2．紹介状と診療情報をお願いしましょう

主治医に紹介状を書いてもらい、病理検査、レントゲン、内視鏡検査などの診療情報をお願いしましょう。それがないと、もう一度すべての検査をやり直さなければならないこともあり、コストと時間の無駄になります。

3．受け入れ先に確認しましょう

受診前に病院に電話をして、受け入れ体制、予約の有無、持参する資料、費用などを確認しましょう。ホームページで調べただけでは、曜日や時間帯などが変わっている場合もあります。

4．病気の経過と聞きたいことをまとめておきましょう

セカンドオピニオンの普及をさまたげる理由のひとつに、受け入れ側の医師の時間的負担が大きいことがあげられ

ます。せっかくセカンドオピニオンをとりに行っても、「とりとめのない話で終わってしまった」というのでは、あなた自身にとっても損。診察時間を有効に使うために、これまでの経過や質問事項、それに対する主治医の意見を、[P20の患者のための整理メモ](#)にまとめておくといいかもかもしれません。

5．情報を集めましょう

あなたが自分の病気をどこまで理解しているかで、医師に質問できる内容が全然違ってきます。また、誰にセカンドオピニオンを依頼するかという問題も、情報収集が必要です。[P6の誰に聞けばいいの](#)や [P14の情報サイト](#)などを参考にして、検査から診断までの時間で情報を集めましょう。患者本人が情報収集できないときは、家族や友人に頼んでください。

6．手順をよく考えて

セカンドオピニオンをとるには、ただでさえ手間と時間がかかります。手順を間違えたために、二度手間・無駄足になるのは避けたいところです。[P18のセカンドオピニオンをとるまでの流れ](#)を参考にして、忘れたことがないか確認しましょう。

7．主治医への報告を忘れずに

セカンドオピニオンをとっても、主治医との縁が切れるわけではありません。誠実な主治医ほど、あなたの“その後”を気にかけています。主治医への報告をきちんしていれば、手術はセカンドオピニオン医の元で受け、その後の放射線治療は主治医の元で受けるといった連携も可能になります。

誰に聞けばいいの？

～セカンドオピニオンに適した医師の専門分野（疾患別）～

セカンドオピニオンをとるのに適している医師の専門分野は、ガンの種類によって違います。次の表を参考にして、医師を探してみましょう。

《1.消化器のガン》

専門分野 ガンの種類	消化器外科医	消化器内科医	内視鏡科医	放射線科医	(腫瘍)内科医
食道ガン					
胃ガン					
胆のう・胆管ガン					
肝臓ガン					
すい臓ガン					
大腸ガン					

《2.頭頸部・胸部のガン》

専門分野 ガンの種類	呼吸器外科医	脳外科医	医 (内分泌)外科	放射線科医	呼吸器内科医	(腫瘍専門) 口腔外科医	耳鼻咽喉科医	形成外科医
脳腫瘍								
副鼻腔ガン								
口腔・舌ガン								
咽頭・喉頭ガン								
甲状腺ガン								
肺ガン								

《3.女性のガン》

専門分野 ガンの種類	医 (乳腺) 外科	放射線科医	医* (腫瘍) 内科	形成外科医	婦人科医
乳ガン					
子宮頸ガン					
子宮体ガン					
卵巣ガン					

《4.男性のガン/泌尿器のガン》

専門分野 ガンの種類	泌尿器科医	放射線科医	医 (腫瘍) 内科	形成外科医
腎臓ガン				
膀胱ガン				
前立腺ガン				
精巣ガン				

《この表の見方》

- * は主治医になりうる医師、 はセカンドオピニオンに適した医師です。
- * は、条件によってはセカンドオピニオン医になる場合があります。
- * 腫瘍内科医とは、抗がん剤治療を専門とする医師です。現状では、腫瘍内科を設置している病院はごく限られています。
- * 病院によっては、診療科の呼び方がこの表とは異なる場合があります。わからないときは、専門医がいるかどうかを病院に問い合わせてください。

《5. 子供のガン》

専門分野 ガンの種類	小児科医 学療法専門 $\text{\textcircled{H}}$	小児外科医	放射線科医	脳外科医	血液内科医	整形外科医	腫瘍内科医
神経芽細胞腫							
ウィルムス腫瘍							
小児脳腫瘍							
小児白血病							
骨肉腫							

《6. 血液ガン・皮膚ガン》

	血液内科医	放射線科医	腫瘍内科医	皮膚科医	形成外科医	整形外科医
白血病						
悪性リンパ腫						
多発性骨髄腫						
皮膚ガン						

《この表の見方》

- * は主治医になりうる医師、 はセカンドオピニオンに適した医師です。
- * は、条件によってはセカンドオピニオン医になる場合があります。
- * 腫瘍内科医とは、抗がん剤治療を専門とする医師です。現状では、腫瘍内科を設置している病院はごく限られています。
- * 病院によっては、診療科の呼び方がこの表とは違う場合があります。わからないときは、専門医がいるかどうかを病院に問い合わせてください。

専門医制度とは

医師の専門分野・専門性は、経験年数や症例実績、研究テーマなどによって知ることができますが、こうした情報は本人の自己申告に頼るところが大きく、事実かどうかのチェックが難しい側面もあります。

そこで、各学会（学術団体）が医師の専門性に関する資格を認定しています（専門医制度）。セカンドオピニオン・ネットワークの協力医リストにも、所属学会や認定医・専門医等の資格を掲載しています。

しかし、各学会の認定の基準に差があることに加え、「認定医」「専門医」「指導医」など複数の資格があり、患者にとって違いがわかりにくいのも事実。ここでは、情報を読み解くヒントをご紹介します。

● 専門医

専門医には、厚生労働省により“広告してもよい”と認定されている専門医（平成 14 年制定）と、広告することは認められてはいないが、学会の独自基準で認定している専門医があります。

2004 年 6 月現在、“広告してもよい”とされているのは、P 11 の 9 項目の条件を満たした以下の 34 団体の専門医資格に限られています。

資格	学会名
整形外科専門医	日本整形外科学会
皮膚科専門医	日本皮膚科学会
麻酔科専門医	日本麻酔科学会
放射線科専門医	日本医学放射線学会
眼科専門医	日本眼科学会
産婦人科専門医	日本産科婦人科学会
耳鼻咽喉科専門医	日本耳鼻咽喉科学会
泌尿器科専門医	日本泌尿器科学会
形成外科専門医	日本形成外科学会
病理専門医	日本病理学会
内科専門医	日本内科学会
外科専門医	日本外科学会
糖尿病専門医	日本糖尿病学会
肝臓専門医	日本肝臓学会
血液専門医	日本血液学会
循環器専門医	日本循環器学会

感染症専門医	日本感染症学会
救急科専門医	日本救急医学会
呼吸器専門医	日本呼吸器学会
消化器病専門医	日本消化器病学会
腎臓専門医	日本腎臓学会
小児科専門医	日本小児科学会
口腔外科専門医	日本口腔外科学会
内分泌代謝科専門医	日本内分泌学会
消化器外科専門医	日本消化器外科学会
超音波専門医	日本超音波医学会
細胞診専門医	日本臨床細胞学会
透析専門医	日本透析医学会
脳神経外科専門医	日本脳神経外科学会
リハビリテーション科専門医	日本リハビリテーション医学会
老年病専門医	日本老年医学会
心臓血管外科専門医	日本胸部外科学会
心臓血管外科専門医	日本血管外科学会
心臓血管外科専門医	日本心臓血管外科学会

詳しくは以下のホームページをご参照ください。

- ・ 厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/topics/2004/03/tp0302-2.html>)
- ・ 日本専門医認定機構 (<http://senmon-i.umin.jp/>)

また各学会のホームページを見ると、専門医資格を持つ医師の名前がわかります。

● 認定医

認定医は、各学会が独自にその要件を定めています。学会会員として一定年度会費を納めており、学会事務局に申請すれば書類審査だけで資格を取得できるものから、研修の受講や試験合格、論文発表などを必要要件としているものまで、その内容さまざまです。

● 指導医

指導医も、各学会が独自にその要件を定めていますが、一般には認定医 専門医 指導医の順に資格のハードルが高くなっていくことが多いようです。

専門医資格を広告してもよいとされている学会の要件

- 1 学術団体として法人格を有している
- 2 会員数が 1000 人以上であり、かつその 8 割以上が医師または歯科医師である
- 3 一定の活動実績を有し、かつその内容を公表している
- 4 外部からの問合せに対応できる体制が整備されていること
- 5 医師または歯科医師の専門性に関する資格の取得条件を公表していること
- 6 資格の認定に際して 5 年以上の研修の受講を条件としていること
- 7 資格の認定に際して適正な試験を実施していること
- 8 資格を定期的に更新する制度を設けていること
- 9 「専門医」として名前が公表されている

MEMO

SOP のセカンドオピニオン協力医リストについて

セカンドオピニオンに協力的な医師の名前が知りたいときは、**セカンドオピニオン・ネットワークの協力医リスト**も参考になるかもしれません。
このリストは次のような方法で作られています。

- * セカンドオピニオン・ネットワークの協力医リスト作成班が作業を行いました。
- * 協力医リスト作成班には、それぞれのガンの領域に詳しい専門家が1人以上参加しています。
- * 専門医名簿などを参考に候補者を選定し、郵送で調査票を送付しました。その結果、このプロジェクトに賛同して調査票に記入・返送いただいた医師のデータを掲載しています。

このリストは、セカンドオピニオン・ネットワークのホームページから無料でダウンロードできます。

<http://www.2-opinion.net>

利用にあたっては、次のような点に留意してください。

- これから成長していくリストです。

現状ではまだ、乳ガン・血液ガンなど限られた分野しかなく、掲載人数もあまり多くはありません。「私のガン」「私の地域」が載っていないというご不満はあるでしょうが、皆さんがセカンドオピニオン医を探す際の手がかりにはなると考えて 仮公開することにしました。

今後、皆さんからの情報も参考にしながら、リストの領域を順次拡大していく予定です。セカンドオピニオンに積極的な医師をご存知の方は、どうかセカンドオピニオン・ネットワークまでお知らせください。

- あなたにとっての“名医”を探すヒントにしてください。

このリストはあくまで、セカンドオピニオンに協力すると回答して下さった医師の名前を掲載したものです。いわゆる“名医”の基準は人そ

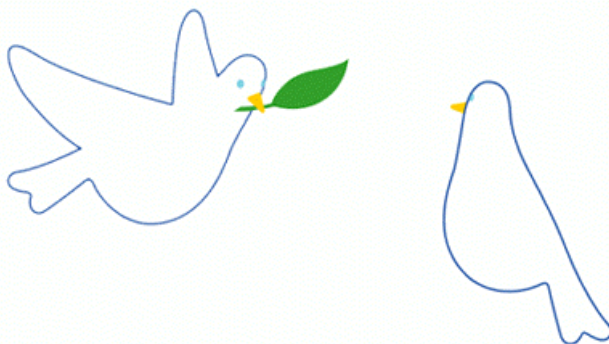
れぞれ。たとえば、専門性を高く評価されている医師が、あなたには“不親切な医者”に思えることもあります。大切なのは、あなた自身の目で判断すること。リストの情報を参考にして、納得できる医師を選んでください。

- このリスト以外にも、セカンドオピニオンに協力的な医師は大勢います。

セカンドオピニオン外来を設置していない病院や、このリストに掲載されていない医師でも、あきらめる必要はありません。実際、希望の病院（医師）に直接セカンドオピニオンを申し込んで、快く協力してもらえた患者も大勢います。まずは勇気を持って問い合わせてみましょう。

- それぞれの医師の対応条件をよく確認してください。
費用の点だけを見ても、保険診療で扱う病院もあれば、「30分 5000円」のような自由診療扱いの病院もあります。予約の要不要、家族のみのセカンドオピニオンを受け入れているかなど、医師によって条件が異なるので、よく確認してください。

- 小冊子と一緒にお使いください。
私達が一番懸念しているのは、リストだけがコピーされて出回ることです。病院や医師のリストというものは、そのリストの特徴（何を基準に選んでいるか）や限界（利用上の注意）をよく理解していなければ、役に立ちません。同様に、協力医の名前さえわかれば、セカンドオピニオンがうまくとれるものでもありません。お友達やご家族に紹介するときは、小冊子やリストの使い方と一緒にお使いください。



ガンについて調べる / 相談する

● インターネットで調べよう

最近では、無料で利用できるガン情報のサイトがいろいろあり 詳しい治療法なども調べることができます。インターネットを使えない方は、身内や知人・友人に頼んで、情報をプリントしてもらいましょう。

以下に医療機関や NPO が運営しているガンの情報サイトを紹介します。

国立がんセンター 「一般向けがん情報」	http://www.ncc.go.jp/jp/
<p>各種のがんの概説、症状、診断、病期（ステージ）と病期別の治療、治療の副作用と対策、生存率・予後が患者向けに解説されている。がんの種類を選ぶときも、体の各部位の絵、50音順、領域別の3つの方法で検索できるのでわかりやすい。</p> <p>その他、「医療従事者向けがん情報」「緩和ケア病棟（いわゆるホスピス）を有する病院一覧」なども閲覧できる。</p>	

癌研究会 「癌の知識」	http://www.jfcr.or.jp/
<p>各種の癌の概要、症状、検査、病期と分類、診断された症例の集計、治療のいろいろ、手術後の管理のほか、癌と遺伝、癌治療と食事、癌Q & A などのコーナーがある。さらに遺伝子診断や治験（新しい治療薬の試験）を解説した「新しい診断と治療」、対面や電話による「がんの相談」もある。</p>	

キャンサーネットジャパン	http://www.cancernet.jp/
<p>海外の信頼できるガン情報の翻訳を中心とする情報を掲載した「ガン情報ライブラリー」、ガンの治療や症状緩和に用いられる薬の基本情報が検索できる「知っておきたい薬の情報」、外来診療やメールでセカンドオピニオンを受け付ける「セカンドオピニオン」のコーナーなどがある。</p>	

Current Cancer Information Japan 最新がん情報」PDQ 日本語版	http://www.cci-japan.com/
--	---

米国国立癌研究所（NCI）が配信する情報を、日本の専門医達が翻訳したもの。内容は専門家向けでかなり難解だが、最新の知見を知りたい人にはお勧め。薬剤の情報もある。

● ガンの電話相談窓口

電話相談窓口も情報源の一つです。情報量の点ではウェブサイトにかないませんが、対話を通じて自分の気持ちを整理できる利点があります。

電話相談の窓口は、主に医師が対応するもの、看護師などコメディカルが対応するもの、患者やその家族など体験者が対応するものに大別され、それぞれ以下のような特徴があります。また、対面のセカンドオピニオンと違って、検査データや診療記録がありませんから、この診断で正しいかといった疑問には答えてもらえないこともあります。

一つの相談窓口で疑問がすべて解決できると考えず、いろいろな窓口を使い分けるつもりで利用してください。

1. 主に医師が対応する窓口

病気の説明や医学的なアドバイスを受けることができます。家族のトラブルや心の悩みについては、十分に対応してもらえない場合もあります。

《日本対がん協会のがん無料相談》

* 月曜日～金曜日の午前10時～午後4時半までに、対がん協会本部（03 3571 5203）に問い合わせる。その場で相談できるわけではありません。

《癌研究会、AFLAC、産経新聞社のがん電話相談》

* 月曜日（祝日の場合は翌火曜日）の午前11時～午後3時に相談受付（03 3918 0110）すべての相談が医師に回されるとは限りません。

2. 主に看護師が対応する窓口

病気の情報、病院との関係、家族の問題、心の悩みなどについて相談できます。

《対がん協会各支部の電話相談》

* <http://www.jcancer.jp/sodan.htm> に電話番号が紹介されている。

《癌研究会、AFLAC、産経新聞社のがん電話相談》

* 毎週火曜日～木曜日の午前11時～午後2時の間に、専任カウンセラー（癌研出身の看護師）が回答する（03 3918 0110）。

3. 主に患者・家族など体験者が対応する窓口

病気の情報源（本やサイトなどの紹介）、家族の問題、心の悩みなどについて相談できます。治療後にどんな不便や苦痛があったかなど、体験者ならではの情報も期待できますが、反面、客観性に乏しい情報が混在している可能性もあります。

個々の窓口・がん患者会については、以下の書籍やサイトを参考にしてください。

全国患者会障害者団体要覧

プリメド社

病気になったときすぐ役立つ相談窓口・患者会1000
患者のネットワーク編集委員会編

三省堂

患者会と障害者団体のリンク集

<http://www.primed.co.jp/selfhelp/>

いいなステーション

全国の患者会約600の検索サイト

<http://www.e7station.com/html/kanjya-kai/kanjakai.htm>

セカンドオピニオン・ネットワークについて

「セカンドオピニオン・ネットワーク」は、よりよい医療環境作りを目指して、ボランティアが所属と立場を超えて結成したプロジェクトです。

セカンドオピニオンに関して下記の原則を提唱し、医師の側には協力医の輪を広げる活動を、患者の側には普及のための活動を行っています。

セカンドオピニオン3原則

医師は、患者さんがセカンドオピニオンをとることを推奨します。

医師は、患者さんが他の医師によるセカンドオピニオンを希望する場合は、診療情報の提供を含めて協力します。

医師は、患者さんがセカンドオピニオンを求める場合は、協力して受け入れます。

セカンドオピニオン・ネットワーク

〒202-8799 西東京市保谷町1-1-7 西東京郵便局保谷分室 私書箱24

F A X 0 3 - 3 4 9 0 - 5 8 0 8

E - m a i l info@2-opinion.net

ご連絡はメールまたはF A Xをお願いします。

セカンドオピニオンをとるまでの流れ

* 一例を示しています。必ずしもこの通りに進むとは限りません。

* 主治医のもとで検査を受ける

* 検査結果の説明
* 病名の診断
* 治療法や今後の身通りに関する説明

* 主治医にセカンドオピニオンをとりたいと申し出る

* 紹介状・診療記録・検査データなどを出してもらう

* セカンドオピニオン医を探す

* セカンドオピニオン医の病院に連絡を取り、
受け入れ条件を確認する。

* セカンドオピニオンをとる

* 自分でよく考えて、治療法を選ぶ

* 主治医に結果を報告する

このプロセスを踏むことで、**インフォームド・コンセント**による**患者の選ぶ権利**が守られ、ケースによっては**カルテ開示**が行われます。

セカンドオピニオンの受け入れ体制

病院に電話で確認しましょう

受け入れ日時は？	() 曜日、() 時 ~ () 時
持参するものは？	主治医の紹介状 画像診断資料 血液生化学検査結果 病理検査結果 病理標本 その他()
費用は？	外来保険診療 自費(分、 円) 無料
家族のみのセカンドオピニオンは？	可(条件など) 不可

《MEMO》

患者のための整理メモ

セカンドオピニオン医に話を伝える際の一助にしてください。

相談の目的		1．診断や治療方針が妥当かどうかを確かめたい 2．他の治療法の可能性を知りたい 3．他の治療機関の可能性を知りたい 4．その他（ ）
持参したものの		1．紹介状 2．画像診断資料 3．血液生化学検査結果 4．病理検査結果 5．病理標本 6．その他（ ）
今の状況		1．初発のガンで未治療 2．初発のガンで治療中または既治療 3．再発ガン
これまでの経過	いつ、何と診断されたか	診断の時期 年 月ごろ 病名 病期 病理診断名
	転移の有無	1．有（部位 ） 2．無 3．不明
	これまでに受けた検査	

これまでの経過	今、勧められている治療法とその理由	
	これまでに受けた治療 (該当者のみ)	
	再発について (該当者のみ)	部位 () 主治医の勧める治療法
主治医の意見		
質問したいこと (箇条書きで)		

ガンのセカンドオピニオンを上手にとるコツ

2004年8月(第1版)

編著 セカンドオピニオン・ネットワーク

《制作メンバー 五十音順》

今井 聡美(納得して医療を選ぶ会、医療ライター)

北澤 京子(編集者)

倉田 雅子(納得して医療を選ぶ会)

須藤 久仁子(納得して医療を選ぶ会)

土橋 律子(支えあう会「[http://www.aido.jp](#)」、看護師)

中澤 幾子(アイデアフォー)

南雲 吉則(がんセンターネットジャパン、外科医)

埴岡 健一(元骨髄バンク事務局長、編集者)

平岩 千代子(納得して医療を選ぶ会、民間シンクタンク研究員)

本多 由未子(がんセンターネットジャパン、ネットワーキングコーディネーター)

山崎 大作(編集者)

山下 浩介(かながわ・がん QOL 研究会、放射線治療医)

? セカンドオピニオン・ネットワーク

営利を目的とした無断複写・転載を禁じます。

患者会や市民のみなさまは、複写してお使いください。